

「調査研究事業報告」

## 5 1994～95シーズンのインフルエンザの流行について

【微生物科】

川本 歩・戎谷 佐知子・木村 優子  
田川 陽子・本田 達之助

### はじめに

鳥取県において、今シーズンA香港型とB型の2種類のウイルスによるインフルエンザの流行がみられた。10年間の患者発生状況からみると3番めの流行規模で、しかも例年とは異なる流行形態であった。またB型ウイルスは、全国でも早期の11月下旬に検出され本県の流行の先がけとなった。そこで、今シーズンの患者発生状況とウイルス分離結果を中心に検討した。

### 材料と方法

#### 1. ウイルス分離

各保健所で採取されたインフルエンザ様疾患の集団発生事例の咽頭拭い液と感染症サーベイラン

ス検査定点医療機関で採取されたインフルエンザ様疾患、上下気道炎の咽頭拭い液を材料とした。

MDCK 細胞を用いウイルス分離をし、型別は赤血球凝集抑制試験を行った。

2. 患者発生状況および施設別発生数（集団発生）は、それぞれ感染症サーベイランス患者情報週報、インフルエンザ施設別発生状況集計表によった。

### 結果および考察

#### 1. 患者発生状況

1982年から年別の患者発生状況を見ると、1990年4569名、1985年4414名、1995年4184名でサーベイランス始って以来3番目の流行規模であった。

(図1)

患者発生を県全体でみると、第49週から始まり第

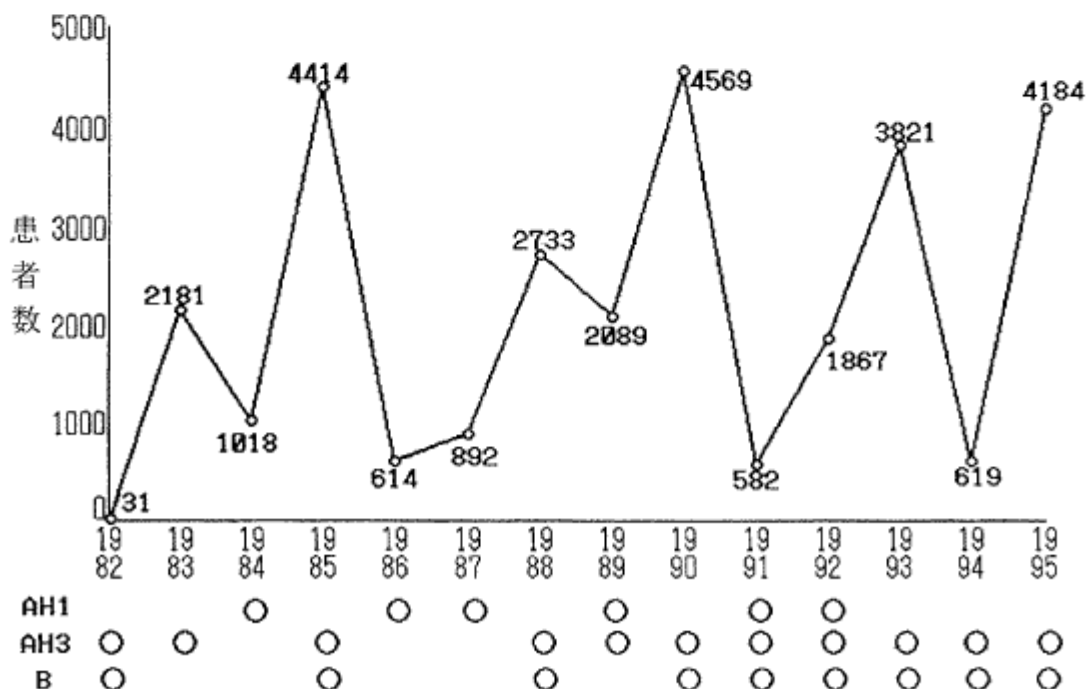


図1 年次別患者発生状況 (1982—1995)

2週頃に増加しはじめ第4週でピークに達し第9週にまた小さなピークがあり2峰性を示し、第15週で終息した(図2)。今シーズンの患者発生状況は例年と異なり急激な上昇でピークも早期であり、患者発生が短期間に集中していた。この患者発生状況は図3に示すように地域別にみると、各地区で特徴あるパターンを示した。流行は先ず東部地区から始まり、東部、西部地区では第4週に、中部地区では第5週にピークを示した。また西部

地区では第9週に小さなピークがあり2峰性を示した。

一方、施設における集団発生例を週別に施設数でみると(図4)、患者発生数の急上昇し始めた第3週からみられ、第4週でピークに達し第11週で発生はみられなくなった。総発生数の約60%を東部地区の施設で占めており東部地区での流行が最も大きかった。

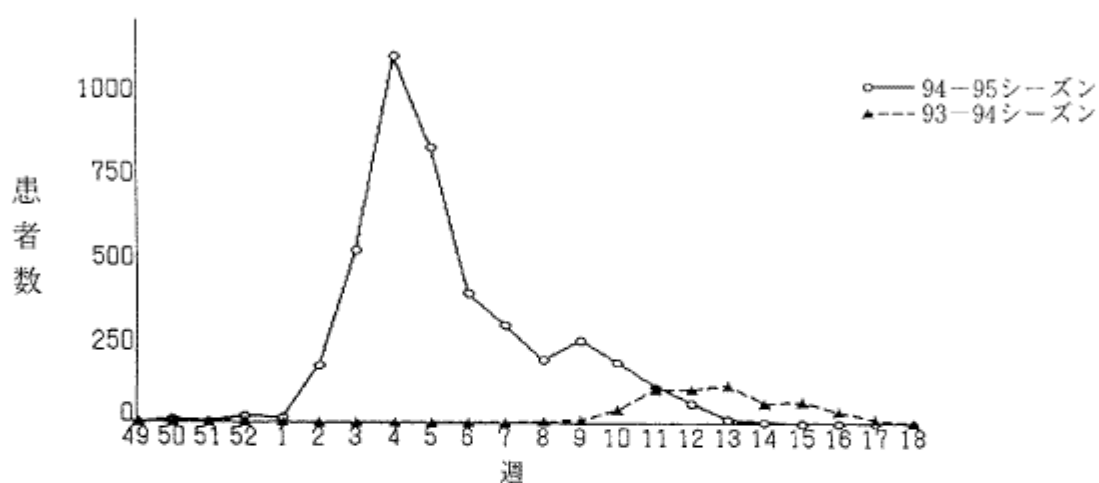


図2 週別インフルエンザ様患者発生状況

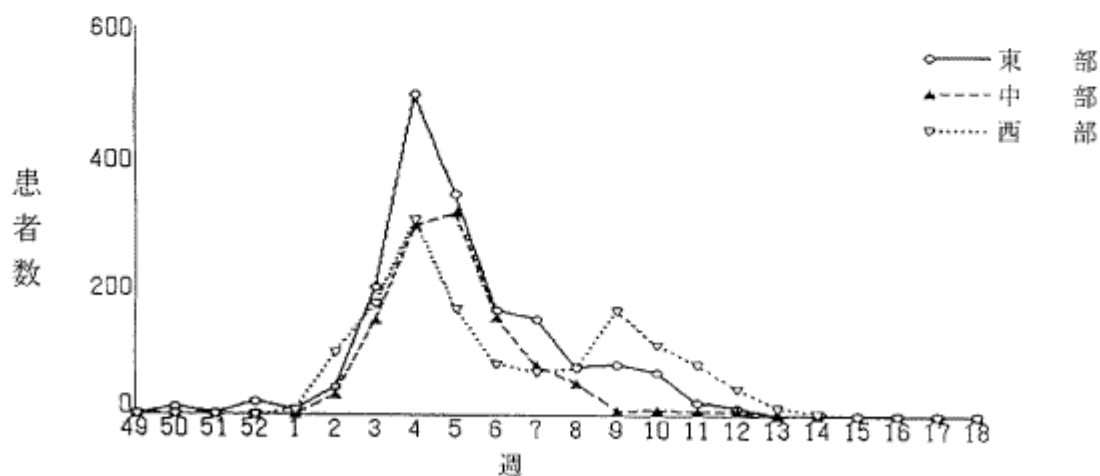


図3 週別インフルエンザ様患者発生状況 (1994-95)

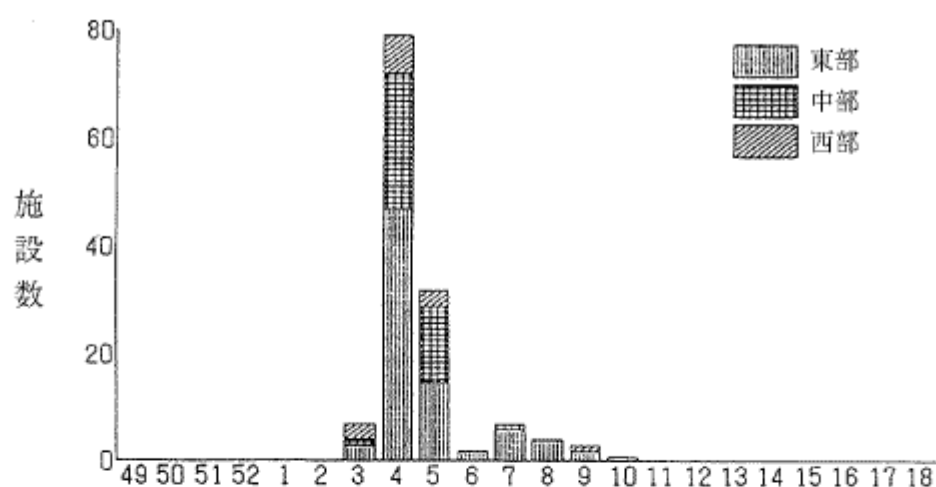


図4 施設別発生状況 (94-95シーズン)

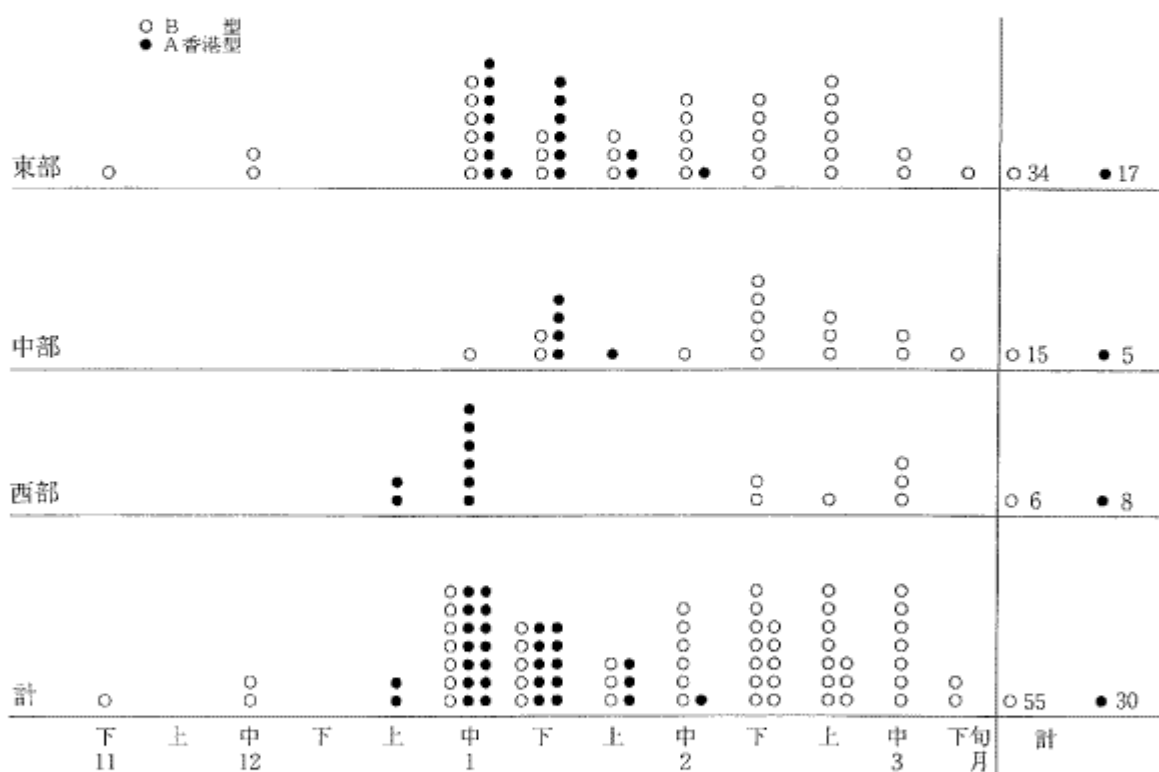


図5 ウイルス分離状況 (地区別)

## 2. ウイルス分離結果

ウイルス分離状況を月旬別に図5に示した。これによるとまだ患者発生報告のない11月下旬に東部地区ではじめてB型ウイルスが分離され、12月中旬にも2株分離された。いずれもサーベイランス検査定点医療機関から得られた上気道疾患の咽

頭拭い液からであった。全国的にも早期の検出でこの時期B型ウイルスが確認されたのは山形県と本県のみであった。B型ウイルスは拡大することなく1月上旬まで分離されなかった。しかしA香港型ウイルスが第1週と第2週に西部地区で2株分離され県全域に波及した。

東部地区では、A香港型ウイルスは西部地区より2週遅れて第3週にはじめて分離され、B型ウイルスとの混合流行となり第3週～第5週の患者発生となったと考えられる。2月に入ってA香港型ウイルスの分離数は減少しB型ウイルスのみが3月下旬の第13週まで分離された。

中部地区では、1月中旬の第3週にはじめてB型ウイルスが分離され、次いで西部地区より3週おくれて1月下旬の第4週にはじめてA香港型ウイルスが分離されたが第5週には分離されなくなりB型ウイルスのみが3月下旬の第13週まで分離された。

西部地区では第1週に本県ではじめてA香港型ウイルスが分離されたが第3週に分離されなくなりその後2月下旬になってはじめてB型ウイルスが分離された。西部地区の患者発生でみられた第9週の小さなピークはB型ウイルスによると考えられた。

以上、今シーズンの患者発生は地区により、発生状況が異なることがウイルス分離結果と合せて明らかとなった。そして例年に比べ早期の第4週

にピークを示し、短期間に集中した発生状況であった。また、東部地区では11月下旬の早期にB型ウイルスが分離されたが、12月に流行が拡大しなかったのはウイルス拡散の場である学校が冬休みに入ったためと思われる。

また、B型ウイルスが約1カ月経て西部地区へ波及したのも興味ある特徴の1つであった。

B型ウイルスは昨シーズンは本県において4株の分離で流行に至らなかったが全国的にも限極した地域の流行であった。

## ま と め

1. 今シーズンはB型ウイルスとA香港型ウイルスの混合流行であった。
2. B型ウイルスは全国的に早期の11月下旬に分離された。
3. 患者発生は第4週にピークを示し2峰性のパターンを示した。
4. ウイルス分離結果および患者発生状況は地域により異なった。